

いわぬまぶんかざいつうしん 岩沼文化財通信

くらしを支えた昆虫



岩沼市マスコットキャラクター
岩沼係長

第27号

2024年10月15日発行

岩沼市ふるさと展示室(市民図書館2階)

TEL:0223-25-2302

質問受付中!

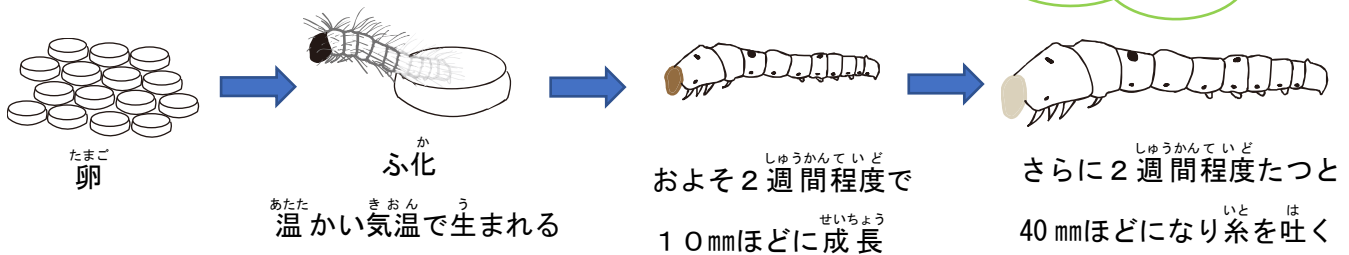
ようさん 養蚕について

現在の岩沼からは想像もできませんが、かつて岩沼の地にも「養蚕」(カイコを育生し、繭から絹糸を取る事)が行われていました。ふるさと展示室の収蔵庫にもかつて市内で使われていた養蚕の道具がたくさんあります。今回は養蚕について紹介します

大好物は桑の葉。
岩沼にもたくさんの桑畑がありました。

カイコ(蛾)

成長に合わせて姿が変化する昆虫。



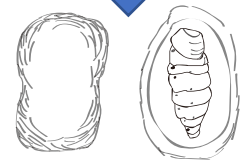
カイコが吐く糸は加工され、高級な絹糸になります。

明治時代、高値で取引され、海外にも輸出されるなど日本の経済を支えました。



カイコガ(成虫)

およそ500個の卵を産む。



繭・さなぎ

カイコに感謝!

カイコを育て、糸を作り、商品として販売するまでに多くの人々が関わり様々な仕事がありました。人々は「おカイコさま」と呼び、カイコに感謝し大切に育てました。

繭を作り終わったらサナギは、ほとんどが処分されてしまうため、カイコ供養の石碑を建てたり、カイコの天敵であるネズミを退治するネコを神として信仰するなどしました。



岩沼市(三色吉)の猫神碑



竹駒神社…農作物に害をもたらすネズミや虫の天敵である狐を祀る神社として、多くの養蚕関係者が参拝した。



西須賀原地蔵堂の養蚕供養塔